

特集

第54回全肥商連全国研修会

「農業×肥料商×」女子力“「日本力」
今、ふじの国から発信！」

女性の発想と取組に学ぶ これからの農業経営

半世紀以上の歴史を誇る
全肥商連の研修会

2018年7月5日・6日の
両日、静岡県掛川市で「第54回全
肥商連全国研修会」が開催され、
全国から約250名の会員が参
加した。この研修会は、一般社団
法人全国肥料商連合会（山森章二
会長）が主催して毎年全国各地で
開催し、半世紀以上の歴史があ

る。今年は総合テーマを「農業×
肥料商×」女子力“「日本力」
今、ふじの国から発信！」と掲
げ、静岡県肥料商業組合実行委
員会（豊田富士雄実行委員長）と
共同開催。農林水産省と静岡県の
後援を受け、2日間にわたって、
数々の講演会やパネルディスカ
ッション等のプログラムや会員
交流の懇親会が開かれた。



「農業女子」が牽引役 農業の未来を担う人づくり政策

1日目の会場・つま恋リゾート彩の郷では、農林水産省経営局就農・女性課の佐藤一絵課長が「農業の競争力強化と人材育成」女性農業者の活躍推進の必要性」と題して記念講演を行った。日本の全ての省庁のなかで「女性」の名称がつく課は「農林水産省経営局就農・女性課」のみで、農業を職業として活躍する女性を積極的に育成している。

日本の農業従事者は平均年齢が67歳と高齢化の一途をたどり、若年層は少ない現状だが、未来の日本の農業をもっと強くするためには、地域の核となる産業を担う人づくりが課題となる。国の政策も今までのやり方の延長だけ

でなく、イノベーションが不可欠で、「農業競争力強化プログラム」の中で、①新規就農者の就職先としても必要な農業経営の法人化の推進、②2次産業、3次産業との連携による良きビジネスパートナーシップ、③豊かな感性、視点、行動力、ネットワーク力を持つ女性が活き活き輝く農業の育成支援の3つのキーワードがカギを握る。

また、行政の新たなチャレンジとして、「農業女子の存在感を高め、企業連携によるビジネス発展や生産物の高付加価値化をミッションとした「農業女子プロジェクト」を5年前にスタートさせ、現在では700名近いメンバーがいる。農業女子プロジェクトのメンバーは「私の仕事は農業です」と堂々と言って、「自分の農業

をもっと発展させたい」という意欲が旺盛な女性たちで、年齢制限はない。今やその活動は地域だけではなく、国連食糧農業機関(FAO)や、国連女性の地位委員会(CSW)など世界へ向けても取り組みを広く発信している。徐々に参画企業や教育機関とのつながりも増え、未来の農業女子を育てる取り組み「チームはぐくみ」も展開中だ。将来的には、あえて「女性」と付けなくても、男性も女性も共に活き活きと農業をしている姿が理想だと締めくくった。

女性農業者が活動と意思を語る パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、静岡県肥料商業組合の水谷久美子理事長(日本オーガニック(株)代表取締役社長)が進行し、「女子力を活かす農業発展の道」というテーマに沿って、パネリスト3名が各々、自らの活動について発表した。

鈴木壽美子さん(株)鈴生(すずなり)(専務取締役)は、40歳まで農業には全く関わりのない異業種の女性キャリア職だった。前職では女性上司から「はじめから出来

ないとは言わない」と教わり、何事もやってみないとわからない、やる前に出来ないとは言わないようにしようと、失敗を分析しながら次のステップへと進んで来た。

就農後も、農業は命を育む仕事と、子供を産み育てる女子力を活かして「案ずるより産むが易し」と、リスクを怖れずに情報を肥やしに「人づくり」「土づくり」をしながら作物を育てている。現在では静岡県内で100軒以上の野菜の生産と流通・販売を行う農業生産法人となり、モスバーガーやNEXCO中日本との共同出資法人もグループだ。女性では数少ない農業委員も務めている。

農業女子プロジェクトのメンバーで、静岡県富士市で体験型茶畑レストランと農家民宿のオーナーを務める豊田由美さん(「ちやの生(き)」代表)は、実家が茶農家だったが、休みもない農家は大変そうで、自分が継ぐことになるとは思ってもいなかったと話す。母親の病気を機に食と家族の健康を意識するようになり、両親の他界後に逆単身赴任で就農。その後、体験型の茶畑レストランや農家民宿を始めた。現在では農業による障害者就労支援施設「スマイ



プロフィール

一般社団法人 全国肥料商連合会
会長 山森章二氏

1978年東京大学法学部卒業、三菱商事(株)入社。以来一貫して「肥料」に従事。インドネシア、アメリカ、アルゼンチンの海外勤務も経験した後、宇部興産農材(株)共同代表、三菱商事アグリサービス(株)常務取締役を経て、2010年からエムシー・ファーターコム(株)代表取締役社長、2018年6月現職専任に。

ルベリーファーム」で農福連携事業も手掛け、障害を持つ人々の就労と自立サポートだけでなく、後継者不足等の問題を抱える地元農家をお手伝いする援農にまで広がっている。

今まで結婚、育児、親の死とその時々に合わせて、しなやかに生き方を変えてきた。柔軟な思考と、目の前にある扉を開けていく行動力こそが女子力ではないか。プシない軸を持ち続けて、やってきた人にしか見るこの出来ない景色がある。

変化にしなやかに対応する 農業経営へ

農研機構（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構）の果樹茶業研究部門・茶品質機能性ユニット上級研究員の物部真奈美さんは、会場で参加者にきれいな緑色の「さえあかり」の水出し緑茶を呈茶した。爽やかな甘みの美味しい冷茶で、緑茶の健康機能性の研究者である物部さんによると、冷たい水で淹れる緑茶には免疫力を高め、リラックスを促す効果があるそうだ。

臨床検査技師として、災害医療ボランティアに出向いた経験か



250名の会員が2日間研修



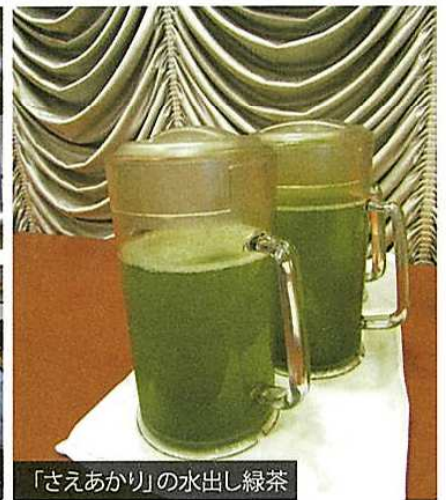
パネルディスカッションでの女性パネリスト3名



静岡県肥料商業組合 水谷久美子理事長（左）



大日本報徳社 大講堂にて



「さえあかり」の水出し緑茶

ら災害後医療に興味を持ち、大学で放射線生物学を学び直した。出来るだけ長く心身共に健康で暮らしていくために生活の中に策を見出したいと、現在は緑茶の飲用が生体へもたらす生理作用について調べている。日々の美味しい食生活で長く健康を維持出来れば幸せだ。「自分に何が出来る？」と模索しながら、目先の不安や失敗にとらわれず、目標を前に持つていくことでしなやかに柔軟な発想が得られてきたと話す。

パネリストの女性3人の話を総括して、コメンテーターの佐藤一絵さん（農林水産省経営局就農・女性課課長）は、「これからの農業経営には、女性だけでなく男性にもしなやかさが大事ではないかと思う。地域に根差した土地があつたようにブレない軸を持ち、世の中の変化を恐れずに変えていくべき時はしなやかに変えていく」とまとめた。

他にも、生産現場からの提言として肥料商としての立場から（株）カネ八商店の加藤眞八社長が登壇。一般の園芸愛好家に向けて簡単に楽しい野菜のコンテナ栽培の講習会を開催し、庭先で失敗しない美味しいミニトマトが収

全肥商連とは

一般社団法人 全国肥料商連合会(略称:全肥商連)は、肥料の流通・普及を推進する、全国の肥料商の組合組織。全国肥料商業者の団結強化と肥料流通における信頼と責任の連鎖を図り、もって肥料並びに農業界、地域活性化の健全な発展に協力し、食の安心安全をはじめとする社会的要請に応えるよう努めることを目的として活動している。具体的には、全国研修会のほか施肥技術講習会を全国で開催するほか、40ある都道府県部会の活性化支援、出版事業などを行っている。1955(昭和30)年に任意団体として設立された全国肥料商連合会の事業を継承し、2011(平成23)年1月19日に法人化。今年1月17日に山森章二氏が会長に就任。



一般社団法人 全国肥料商連合会のホームページ

一般社団法人 全国肥料商連合会



所在地 〒113-0033 東京都文京区本郷3-3-1

お茶の水K.Sビル3階

TEL 03-3817-8880

<http://www.zenpi.jp/>



静岡県肥料商業組合実行委員会
豊田富士雄実行委員長



農林水産省経営局就農・女性課
佐藤一絵課長

女子力に始まり、男女共通の テーマに発展した研修会

2日目は、青果流通の取り引きを取り組みに変える「ベジプロバイダー事業」で生産改革や流通改革を実践している(株)エムスクエア・ラボの加藤百合子社長の「農業はイノベーションの宝庫」と題しての講演会や、(公社)大日本報徳社の石野茂子理事による二宮

獲出来る」と大好評を得ている。「発想を変えれば、何かが見える!」と心の柔軟性を大切にして顧客に喜ばれる成長を」と語った。

尊徳翁の教えと、それを継承、普及してきた岡田家四代についての講演会を、明治36年建築の日本最古の公会堂のひとつとして国の重要文化財に指定されている大日本報徳社大講堂を会場に開催した。

全国研修会を終えて山森会長は、「真のプロの意識と技量に裏打ちされた迫力ある講演やデイスカッションは大変有意義で、心に刺さる内容だった。『女子力』というテーマで始まったが、女子と男子に区分けした考察と、女子・男子に共通する核心の議論が明確に分けて論じられ、その先の議論も深まり、自分も少し変わる良い

契機となった。全肥商連としても、今後とも会員の皆様に資する活動の拡充に努めて参りたい」と述べた。
(文/江崎敦子)